

安達三季生名誉教授のご逝去を悼む

中野, 勝郎 / NAKANO, Katsuro

(出版者 / Publisher)

法学志林協会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法学志林 / Review of law and political sciences

(巻 / Volume)

119

(号 / Number)

1

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

2

(発行年 / Year)

2021-07-15

安達三季生名誉教授のご逝去を悼む

法学部長 中野 勝 郎

本号は、一昨年にご逝去された本学名誉教授故安達三季生先生を追悼して刊行されます。安達先生は、一九二七年に京都でお生まれになり、二〇一九年にご逝去なさいました。先生のご冥福をお祈りいたします。

安達先生は、一九五五年に本学に赴任され、一九九七年に定年退職なさいました。先生は、在任期間に法学部長およびを担当される一方、民法と手形・小切手法との統一的考察を追究なさいました。先生は、在任期間に法学部長および健康保険組合理事長をお務めにもなりました。四二年間にわたって本学での教務・学務にご精勤いただいたこと、あらためて先生に感謝申し上げます。

また、先生は、生前より私財を投じて幾度も法学部にたいしてご寄付くださっており、それを基金として「安達三季生奨学金」が設けられております。加えて、ご逝去後には、遺言により一千万円を新たにご寄付くださいました。それにより、同奨学金は安定した基金を得ることができました。先生のご厚意によるこの奨学金の創設につきまして、深い感謝の気持ちを込めて、記しておかなければなりません。

「安達三季生奨学金」により、法学部では、『法学志林』へ寄稿した兼任講師および大学院生にたいして奨励金・奨学金を給付することが可能となりました。「後生畏るべし」。その言や良し。しかし、安達先生は、まさに、この言葉

に内実を与えるかのようにして、やがて来るべき新進の研究者およびその予備生にたいして、研究の支援を惜しみなくおこなってくださいました。これもまた、学問の伝統の維持に資する先生なりの献身の仕方であったといえるかと思いません。

現在の法学部の教員の多くは、わたくしを含めて、安達先生と教授会で席をともにすることを経験していません。先生を存じ上げない教員がほとんどです。先生のご業績につきましては、『法学志林』第九五巻第一号に、業績目録とともに、先生がみずから執筆なさった『研究生生活を振り返って』というエッセイが掲載されていますので、そちらをご覧くださいと思います。ここでは、学部を代表して、去りてなお自らが所属なさっていた学部およびそこに属する後輩たちへの援助を惜しみなくお続けになった安達先生への謝意をも込めて、追悼の意を表する次第です。先生、どうぞ、安らかにお眠りください。

二〇二一年五月